令和6年度新時代の英語教育推進事業 第1回研究協議会

実践研究で大切にしたい視点

√ Self-introduction

何ができる? <u>(</u>目 標) 話すこと [やり取り] ウ その場で質問したり答えたり することができる

何を学ぶ? (内 容)

- ・質問したり答えたりする
- ・言語材料:What 〇〇 do you ~? / Do you ~? / I like ~. / I can ~. など

どのように学ぶ? (言語活動など)

言語活動:「自己紹介」

目的:「お互いのことをより

よく知るために」

相手:初めて会った先生方

視点し

単元等で育成を目指す資質・能力を明確にする

視点2

言語活動を通して指導する

視点3

目標に向けて指導したことを評価する

視点Ⅰ

単元等で育成を目指す資質・能力を明確にする

その単元では、どんな力を育てたいか(重点となる領域は?)

目標に向けて、どんな活動で何を指導するか

児童生徒がどのような姿・発話なら「おおむね満足」か

単元(本時)の目標

単元(本時)を通して、どんな力を付けたいのかを常に意識しながら授業を行うことが大切です。付けたい力に即して、「今日はどんなことができればよいのか」を明確にしましょう。



目指す児童の姿を具体的に描く

単元末の言語活動における具体的な児童の発話などの例を、「A評価の例」「B評価の例」として事前に書いてみるとよいでしょう。

→ 評価の基準が明確になります。



視点2 言語活動を通して指導する

「誰に」「何のために」コミュニケーションを行うか具体的に

Try & Errorをくり返す場を十分に確保

目標や活動のねらいに向けた指導(気付きを促す中間指導)

必然性のある言語活動

「誰に(と)」「何のために」コミュニケーションを行うのか、生徒は意識できていますか?

「相手に興味をもってもらえるように、〇〇を伝え合う」という言語活動であれば、 どんなことが相手に伝われば興味をもってもらえるか、何を知りたいかなどを生徒 に問いかけるなど、生徒自身が考える機会を充実させたいですね。

児童生徒が思考・判断する工夫

使う表現を提示するのではなく、生徒に考えさせるようにします。例えば、

「I would like ○○.」を使うように示すのではなく、「注文する」という場面を確認します。その中で、どのような表現を使えばよいかを生徒が考えることが大切です。



中間指導について

- ① 先生が常に目標を意識した指導を行うことで、生徒も目標への意識が高まる。
 - (例) 本時の目標が、発表の「内容面」に関すること
 - → 中間指導では、「正確さ」よりも「内容面」をふり返る
- ② 生徒が発言したり考えたりする機会を確保する。
 - (例)「どんな内容があるとよいか」を生徒に問いかける、各々教科書を 参考にする時間、モデルとなる生徒の発表など

練習からリアルに

パターンプラクティスに終始していませんか?

意識できるようにしましょう。

→ (例)「三人称単数現在形の文」の練習 クラスメートや学年外の先生について知っていることについて、「使いながら"s" を付けることに気付く」「生徒が表現してみて、必要に応じて指導を行う」など、 言語材料についての練習でも、言語活動の目的や言語の使用場面を

視点3

目標に向けて指導したことを評価する

目標に向けて指導したことは何か

目標としていない(指導していない)ことを評価していないか

評価する前にくり返し指導(支援)を行っているか

思考・判断・表現の評価①

- ▲ 「三人称単数現在形を用いて、あこがれの人物について発表している」 三単現のsなど、言語材料を正しく用いて発表している = 知識・技能の側面
- → 「…のために、具体的な情報を付け加えてあこがれの人物について発表 している」
 - = 思考・判断・表現は、特定の言語材料を指定せずに、目的・場面・状況 に応じた内容になっているかを評価しましょう。(話すこと・書くこと) →

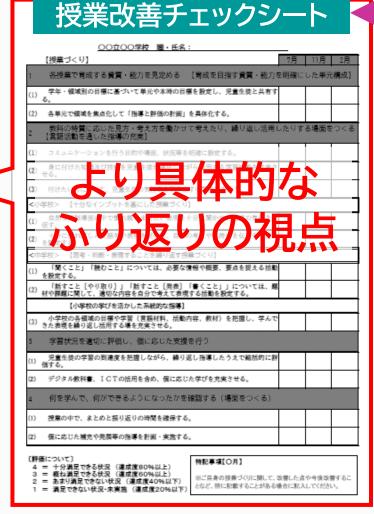
思考・判断・表現の評価②

- 三人称単数現在形を正しく用いることができるか(知識·技能)を見る場面も必要ですが、例えば、
- ① 三単現のsはついているが発表内容がうすい
- ② 三単現のsは抜けることもあるが発表内容が豊か これらを「思考・判断・表現」の観点であればどう評価するか、適切に判断 しましょう。



✓ 実践計画書(報告書)と授業改善チェックシートについて





学校教育指導の重点

英語教育実施状況調査

Step Up評価問題

英検IBA